

「越路河川公園の桜並木」 撮影者：地域連携支援部 高野明美



ご挨拶

副院長 加勢 宏明

昨年9月より副院長を務めさせていただいております。専門は産婦人科で、数多くの分娩に立ち会ってきました。昨今では、コロナ禍で立ち会い分娩の中止や面会制限など、多くの方々にご迷惑をおかけしています。以前に比べて感染に対する対応は緩和されてきていますが、総合病院でもあり、免疫力の低下した方も数多く入院されていますので、少しずつ以前の姿に戻していければと思っています。

当院は、昨年、病院の機能向上のために病院機能評価というものを受審いたしました。患者さんに直接みえる部分もみえない部分も含め、様々な項目を外部から評価していただき、実は一皮むけた病院になっています。今年はさらに、この改善を進め、さまざまな指標のデータ公開などもおこない、病院の見える化すすんでいくこととなります。さらに質の良い医療を提供し進化する病院をご期待ください。

私自身は、2007年春に赴任以来、当院勤務も17年目になります。個人的なふり返りと改善も忘れることなく、当院の進化の一翼となれるよう、努力して参りたいと思います。

今後もよろしく願います。



乳がんの診療について

乳がんは増え続けており、日本人女性は生涯で9人に1人が乳がんにかかります。一方で、乳がんで亡くなるのは60人に1人ですので、治る人が多いがんといえるかもしれません。

乳がんの5年相対生存率(相対生存率:乳がんで亡くなった人だけを除いた生存率)は92.2%(診断年2013-2014)、10年相対生存率は87.8%(診断年2009年)で、他のがん比べて高い数字です。ステージ1は5年相対生存率99.8%、10年相対生存率99.0%と特に良好です(国立がん研究センターがん情報サービス「院内がん登録生存率集計」)。

検診で発見された乳がんは76%が早期がん(ステージ0、ステージ1)(日本乳癌学会「全国乳がん患者登録調査報2018年次症例」)ですので、積極的に乳がん検診を受けましょう。

さて、検診結果や乳房のしこり、乳首の出血などで病院を受診することになります。病院では、まず、触

診やマンモグラフィー、超音波検査を行います。検査の結果、がんの可能性がある場合は組織診(一般的には、局所麻酔での針生検:針での組織採取)を行います。組織診でがんと確定すると、転移の有無を調べるCTなどを行い、治療方針が決定、治療が開始されます。

乳がんの治療は、手術、薬物療法、放射線治療を病状に合わせて組み合わせます。

乳房切除には、乳房全切除術とがんが小さいときなどに行う乳房温存手術(部分切除)があります。乳房温存手術は乳房が残りますが、乳房に放射線治療を行います。乳房全切除術は乳房全体を切除するので、乳房への放射線治療は不要です。どちらの手術も病状により、周囲のリンパ節などに放射線治療を追加する場合があります。乳房全切除術の場合、乳房の膨らみや、乳頭・乳輪を再建することがあります。腋窩リンパ節(脇の下のリンパ節)に転移がある場合は腋窩リンパ節郭清(リンパ節を取り除くこと)を行います。

術後の後遺症は、①胸部から脇、上腕にかけての痛み、違和感、しびれ、②肩関節の拘縮、③リンパ流が妨げられ腕がむくむリンパ浮腫などがあります。どれも腋窩リンパ節郭清をしない場合には起きにくくなりますので、早期に発見することが大事ですね。

薬物療法は、ホルモン感受性のある場合に行うホルモン療法と、再発リスクが高い場合に行う化学療法があります。ホルモン療法は副作用が比較的軽いですが、化学療法には脱毛や吐き気、食欲不振、口内炎などの副作用が出ることがあります。脱毛は一時的でまた生えそろういます。入院するほどの副作用は少ないので、基本的に外来通院で行います。

医師や看護師、様々なスタッフが不安を解消できるような診療に当たっておりますので、気軽に受診してください。

	生涯罹患リスク (%)		何人に1人か	
	男性	女性	男性	女性
全がん	65.5	51.2	2	2
胃	10.0	4.7	10	21
大腸	10.3	8.1	10	12
肝	3.0	1.5	33	68
肺	10.0	5.0	10	20
乳房		11.2		9

出典:国立がん研究センターがん対策情報センター「がん登録・統計」2019年データ

	生涯死亡リスク (%)		何人に1人か	
	男性	女性	男性	女性
全がん	26.2	17.7	4	6
胃	3.2	1.6	31	63
大腸	3.3	2.7	30	37
肝	1.9	0.9	53	110
肺	6.2	2.5	16	39
乳房		1.7		60

出典:国立がん研究センターがん対策情報センター「がん登録・統計」2019年データ

記事担当

外科部長 長谷川 潤

もっと知ってほしい！ 部署のこと

HCU 病棟について

HCU 病棟は3階にあり、病床数は12床（個室4床・オープン病床8床）です。

診療科を問わず高度な治療や看護ケアが必要な患者様を受け入れています。外科、整形外科、呼吸器外科、婦人科、泌尿器科、耳鼻科、心臓血管外科の全身麻酔で手術を受けられる方は、術式により各病棟から出棟しHCU病棟に帰室します。心筋梗塞の患者様はカテーテル治療後、消化管出血の患者様は内視鏡治療後、重症肺炎等で人工呼吸器管理が必要な患者様はHCU病棟へ入院になります。一般病棟とは違い、特殊な環境であり、患者様が1日でも早く一般病棟へ戻ることができるように、個別性のある急性期看護を実践しています。

HCU病棟には、緊急入院で生命の危機にある患者様、治療の選択を迫られる患者様、御家族がいます。その時は、入院時重症患者対応メディエーター講習を受けた看護師が医師の病状説明に同席し、その後御家族の思いを傾聴、不安の軽減に努めています。

看護部の理念「私だったら 私の家族だったら どんな看護を受けたいのかを考えて看護を提供する」を基にHCU看護方針「寄り添い、応える看護を提供致します」を実践し、安心してHCU病棟で治療が受けられるようにしていきます。

HCU 看護師長 板屋綾子



個室



オープン病床



朝のカンファレンスの様子



いつも優しく笑顔で看護しています

栄養科
ワンポイント
コーナー



栄養たっぷり！
～旬の春野菜を食べましょう～



暖かく過ごしやすい季節になってきました。この時期になるとスーパーで「春〇〇」、「新〇〇」と呼ばれる野菜をよく見かけますね。この時期の野菜はいずれも通年出回っている野菜に比べ柔らかく甘みもあり、みずみずしいのが特徴です。今回はそんな旬の春野菜についてご紹介します。

○春キャベツ

ビタミンCや食物繊維が豊富。胃の粘膜を丈夫にし、消化を助ける働きがあると言われるビタミンUが含まれています。葉の巻きがゆるく、軽い物を選びましょう。

○アスパラガス

免疫力アップや疲労回復などの効果が期待されるアスパラギン酸を含みます。他にもビタミンA、B1、B2、C、Eなどの栄養素も含みます。収穫してから時間が経つと穂先が開いてくるため、穂先がキュッとしまっている物がおすすめです。

○新玉葱

ビタミンB1、B2、C、カルシウムを含みます。また、特徴として辛味のもとになる成分の硫化アリルを含みます。硫化アリルには疲労回復や殺菌効果、血液をサラサラにしてくれる効果があると言われています。重みがあり、皮にツヤがある物を選びましょう。

暖かくなり外へ足を運ぶ機会も多くなるとは思います。春野菜で栄養をたっぷり摂り、春を満喫しましょう！

記事担当：管理栄養士 吉澤 恵



病院からのお知らせ

✓ 「病院の理念」

地域の中核病院として
皆様の健康を守る為
良質で心温まる医療を提供し
予防・保健・福祉活動を
積極的に推進いたします

✓ 「患者の権利」

当院では、医療行為が患者さん中心に行われるべきものであると深く認識し、以下の5項目を患者の権利と制定し、これを日常の医療行為の規範とすることを宣言いたします。

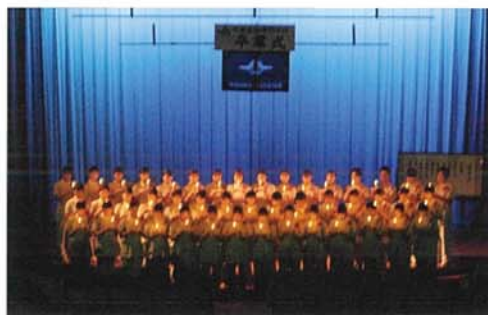
1. 個人の尊厳を尊重される権利
2. 良質の医療を平等に受ける権利
3. 十分な説明を受ける権利
4. 自己決定の権利
5. 個人のプライバシーが守られる権利

✓ 中央看護専門学校 令和4年度卒業式を開催しました

令和5年3月9日、NCホールにて令和4年度卒業式を開催しました。

新型コロナウイルス感染症が猛威を振るう中で、常にマスクと共に過ごした学生生活でしたが、最後はマスクを外しての式典となりました。

45名の卒業生が笑顔で巣立っていきました。



✓ 病院協栄会様より生花をご寄贈いただきました。

2月14日、病院協栄会様より「医療従事者の皆さんありがとうございます」のメッセージが添えられた、生花2基をご寄贈いただきました。

お花は正面玄関と自動精算機前に飾らせていただきました。

お心遣いに深く感謝申し上げます。



✓ 病院機能評価 3rdG : Ver.2.0の認定を取得しました。

病院機能評価とは、日本医療機能評価機構が専門的な見地から行う「病院組織全体の運営管理および提供される医療」についての審査のことで、今回初めて認定をいただきました。

これからもすべての人に良質で心温まる医療を提供できるよう、職員全員で努力してまいります。

病院長 矢尻洋一

